

京都大学ジャパングateway構想 (JGP)  
融合工学コース 物質機能・変換科学分野  
Japan Gateway: Kyoto University Top Global Program  
スーパーグローバルコース (SGC)  
Top Global Course of Chemistry and Chemical Engineering

## コース履修者募集説明会

日時：7月29日(金) 11:00～11:30

対象：化学，化学工学分野で世界で活躍することを夢見る，  
博士課程進学を考えている4回生，修士

### 1. スーパーグローバルコースについて

京都大学では、先見性を重視する本学の精神にもとづき、戦略性、創造性、展開性ならびに継続性をもって世界で活躍するグローバル人材を育成するトップ型日本モデルとして、**スーパーグローバル大学創成支援「京都大学ジャパングateway構想」**を平成26年度(2014年)より開始しました。この事業の一環として、海外の大学院と連携したコースの設立に向けての活動に**工学研究科化学系6専攻**も参画し、平成27年度(2015年)より**スーパーグローバルコース**（英語名：Super Global Course)を開設しています。

プログラム履修候補生の募集等の詳細については、別途掲示等にてお知らせします。カリキュラムについては、融合工学コース「物質機能・変換科学分野」を参照してください。

2013年10月1日(火)

# 国際化へ新構想を発表 京大グローバルアカデミー(仮称)

**企画機能** = グローバルアカデミー 統括本部  
京大グローバルアカデミーを全学的見地から統括・牽引

**教育機能**

- 国際高等教育院 (国際言語基盤教育プログラム)
- 学部・大学院スーパーグローバルコース
- 国際進学スーパーグローバルプログラム

**研究機能**

- 国際高等科学院 (仮称)
- スーパージョン万プログラム
- 国際進学スーパーグローバルプログラム

2013年10月1日(火) 国際化推進本部が発表した京大グローバルアカデミー(仮称)の構想。この構想は、京大の国際化戦略を推進するための重要な役割を果たすことが期待されている。京大グローバルアカデミー(仮称)は、国際化推進本部が発表した京大の国際化戦略を推進するための重要な役割を果たすことが期待されている。京大グローバルアカデミー(仮称)は、国際化推進本部が発表した京大の国際化戦略を推進するための重要な役割を果たすことが期待されている。

国際化推進本部は、京大の国際化戦略を推進するための重要な役割を果たすことが期待されている。京大グローバルアカデミー(仮称)は、国際化推進本部が発表した京大の国際化戦略を推進するための重要な役割を果たすことが期待されている。京大グローバルアカデミー(仮称)は、国際化推進本部が発表した京大の国際化戦略を推進するための重要な役割を果たすことが期待されている。



**京都大学新聞**

京大グローバルアカデミー(仮称)構想 Kyoto University Global Academy\*

To achieve the goals of The Za by 2020 Initiative, Kyoto University is establishing the Kyoto University Global Academy\*, a suite of innovative education and research programs and initiatives that seek to intensify international competence in our students from the undergraduate level and expand our international cooperative research undertakings. Through these initiatives, we seek to focus on fields vital to future national development and enhance education and research cooperation with an international partner.

**教育機能**

**国際高等教育院**  
Institute for Liberal Arts and Sciences

言語運用能力育成のための国際言語基盤教育プログラムを実施します。

**学部・大学院スーパーグローバルコース**  
Advanced Global Courses (Undergraduate / Graduate)

英語のみで卒業・修了可能な学部・大学院国際コースを実施します。

**必修等々のリーディングプログラム**  
Leading Programs at the Graduate School of Advanced Learning Studies and Other Graduate Schools

国際機関との連携を強化し、グローバル人材の新たなキャリアパスを開発します。

**研究機能**

**国際進学スーパーグローバル学位プログラム(仮称)**  
Advanced Global Degree Program in International "Specialist"

世界トップレベルの大学から研究者を招聘し、国際進学スーパーグローバル学位プログラム(仮称)を実施し、世界と誇れる人材を育成します。また、ジョイントイニシアチブプログラム(国際進学スーパーグローバル学位プログラム)に国際化を推進します。

**スーパージョン万プログラム**  
The John King Memorial Program (Kyoto University Young Scholars Overseas Study Program)

文芸史を扱う専攻人材(研究者、職員および学生)を対象に、海外の大学院・研究機関への留学・研修の機会をさらに拡大します。

**白眉プロジェクト**  
Hakubi Project

優秀な若手研究者に、自らの研究テーマを国際にわかりやすく伝え、国際化推進の場を十分に確保することで、学際分野や国際を越えた世界トップレベルの研究者を養成します。

**国際高等科学院(仮称)**  
International Center for Emerging Sciences\*

本学と海外大学の世界トップレベルの研究者による共同研究ネットワークを設け、世界最高峰の研究拠点を構築します。

\*Detailed promotional feature

JGP

Top Global University Project "Japan Gateway - Kyoto University Top Global Program"  
 スーパーグローバル大学創成支援「京都大学ジャパングートウェイ」

HOME
検索
教育
スーパーグローバルコース提供分野
教員・学生インタビュー
お問い合わせ
English

## 京都大学ジャパングートウェイ構想について

HOME

二コース一室

挨拶

概要

スーパーグローバル大学創成支援について

京都大学ジャパングートウェイ構想について

ダブルディグリー・ジョイントディグリーについて

MOCsについて

外部評価委員会報告

スーパーグローバルコース提供分野

人文社会科学分野

Home / 概要 / 京都大学ジャパングートウェイ構想について

10年後を見据えた入試から大学院までの教育改革と国際化により  
次世代のトップレベル研究者を世界に輩出

本学が十分な国際競争力を持つ分野を擁する大学院に、各分野の世界トップレベル大学と連携して実施する国際共同教育プログラム「スーパーグローバルコース」を設置します。各分野のスーパーグローバルコースにおいては、パートナー大学との共同科目の開設、博士論文の共同指導・査読等の取組を行うとともに、国際共同学位プログラム「ジョイントダブルディグリープログラム」の開発を進めます。

これによる大学院教育の国際化と、入試改革、外国人教員の雇用促進、留学生の受け入れおよび学生の海外派遣の増加、英検による授業の増加等、大学教育の様々な側面の国際化との相乗効果により、本学の研究・教育力の更なる強化を図り、世界で活躍する次世代のトップレベル研究者を輩出します。

<div style="background-color: #f08080; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold; font-size: 0.8em;">人文社会科学分野</div> <p style="font-size: 0.8em;">人文社会科学分野では、「持続可能性」と「複雑性」をキーワードに経済学・文学・農学の3研究科が協力的に国際共同教育・学位プログラムを実施しています。広範領域を網羅していることに加え世界各地の大学と連携を持つ種多を活かし、これまでに文学研究科でハイデルベルク大学とのジョイントディグリープログラム（修士課程・国際連携文化越境専攻）を、また経済学研究科でグラスゴー大学とのダブルディグリープログラム（博士後期課程）を開始しました。研究交流ハブ拠点となることを目指し、ワーヘニンゲン大学、ストラスブル大学、ゲッティンゲン大学、チュロンコン大学等、欧州・アジアの主要大学との研究交流、第一線の研究者による直接指導を通じ、国際的競争力のある学生育成を推進しています。</p>	<div style="background-color: #90ee90; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold; font-size: 0.8em;">医学生命分野</div> <p style="font-size: 0.8em;">医学生命分野では、ノーベル医学生理学賞、ロベルト・コッホ賞、アルベルト・ラスカー賞などの世界的に著名な賞の受賞者を数多く輩出してきました。その世界第一線の研究力、プレゼンスをより一層強化するため、ゲノム医学領域を中心に、マギル大学、ホルダー大学、バスター研究所といった欧米トップクラスの海外パートナー校とのさらなる連携体制の構築に取り組んできました。さらに、平成30年4月より、国際共同教育プログラムの発展形として、マギル大学との国際共同学位プログラム「京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻（博士課程）」を開設し、大学院教育の徹底した国際化を断行し、国際競争力のある人材を育成するとともに、京都大学の世界的評価を高めることを目指します。</p>	<div style="background-color: #add8e6; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold; font-size: 0.8em;">化学分野</div> <p style="font-size: 0.8em;">化学分野を構成する工学研究科化学系6専攻は分子レベルの理論的解析から地球規模の環境、エネルギー問題の対応までを含む、非常に幅広い教育・研究を実施する世界的に見ても最大規模の化学系大学院組織であり、ノーベル化学賞、アンホルト賞をはじめとする世界的な賞を数多く受賞しています。また化学工学分野ではQSランキングの世界5位となっています。本分野では当化学分野の持つ特徴を最大限に生かし、マサチューセッツ工科大学等の海外連携大学教員による集中講義形式の科目を含め、講義の多く（博士後期課程においてはすべて）を英語で開講する教育プログラムを設置して国際水準の教育を確立し、大学院生の術能力の強化と国際化を図るとともに、質の良い留学生数の増加も目指しています。</p>
<div style="background-color: #90ee90; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold; font-size: 0.8em;">数学分野</div> <p style="font-size: 0.8em;">数学分野は、フィールズ賞をはじめとする世界的に著名な賞を数多く受賞し数理科学の広範な分野をカバーする世界最高水準の研究者集団を擁し、時代を先導する研究を数多く行ってきました。大学院生は、指導教員であるこれらの本学教員に加えて、第一線の外国人研究者を副指導教員とした共同研究指導を受けることにより、数学の高い研究能力と十分な語学力を備えて、国際的な環境の中で博士論文の研究を行うことができます。平成27年度には3名、平成28年度には7名、平成29年度には5名の大学院生が海外の研究者を副指導教員として博士の学位を取得しました。また国際的な研究ネットワークを構築し、学位論文の成果が国際的に周知されることで、国際的な活躍の場が広がります。</p>	<div style="background-color: #90ee90; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold; font-size: 0.8em;">環境学分野</div> <p style="font-size: 0.8em;">地球環境学堂/学舎・農学研究科からなる環境学分野は、自然科学、社会科学、人文科学など多分野から構成される。環境問題に資する学際的・複眼的な教育・研究を行っています。教育においては、Rattan Lal氏 (The Ohio State University)、Denis Peitprez氏 (Life University) など著名な研究者を招へし、環境学分野における先導事例を提供するとともに、マヒドン大学、ボゴール農業大学などと新たなダブルディグリープログラムを実施しています。加えて、提携大学における国際インターン研修の実施など、教育プログラムの国際化を推進しています。研究においても、日本学術振興会賞（泉見忠）、日経地球環境技術賞・優秀賞（真栄志ら）、日本農学賞（近藤直）を受賞するなど、新たな環境技術が評価されています。</p>	<div style="background-color: #90ee90; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold; font-size: 0.8em;">社会健康医学分野</div> <p style="font-size: 0.8em;">社会健康医学分野は、21世紀のグローバルヘルスを先導するワールドプレミアム公衆衛生大学院の創成を目標として、専攻内に国際化推進室を設置し、チュロンコン大学、マヤヤ大学、マヒドン大学、国立台湾大学等のASEAN、東アジア、欧米の主要大学と連携しつつ、教育プログラムの学際化・国際化、学位プログラムの国際化を強力に推進すると共に、若手研究者に焦点化した国際交流を推進しています。これまでに、必修科目、一部選択科目、及びHPを英語化し、英語による教育・広報体制を前進させると共に、台湾、ASEAN、英国の主要公衆衛生系大学院から若手研究者を招聘して国際会議を開催し、併せて、国際共同研究の推進を図るため、提携海外大学との間で、活発な学生、教員の交流（派遣・招聘）を行いました。</p>

## ② カリキュラムポリシー

アドミッションポリシーで記した目的達成のため、化学・化学工学分野で世界的トップレベルの海外教育研究機関との連携・協力の強化を行い、化学・化学工学に関する先進的・学際的な研究・教育を展開する。

- ・化学・化学工学分野においてトップレベルの研究者を招聘し、集中講義を実施する。
- ・海外提携大学の化学・化学工学科の教員との共同研究の実施、その研究を通じた教育を実施する。
- ・海外提携大学の化学・化学工学科での研究インターンシップを実施する。
- ・海外提携大学の化学・化学工学科とのジョイントコースの設立を目指し、その準備段階として海外提携大学で取得した単位の認定制度を検討する。
- ・博士後期課程での履修に必要な授業科目は全て英語で開講する。

これらの教育を通して、化学・化学工学の各分野で、成果を世界に発信できる能力を有する研究者・技術者を育成する。

### ○応募要件

本コースでは、化学系専攻に係わる各分野において、広い視野で自ら考え、解決策を構築し、またその考えを世界に発信できる能力を有する研究者・技術者を育成し国際社会に送り出すプログラムを実施する。・・・略

#### 1. 募集人員

コース履修者 6名～10名程度

#### 2. 出願資格

令和4年4月に、先端化学専攻群、創成化学専攻群、または化学工学専攻の修士課程（修士課程教育プログラム、博士課程前後期連携教育プログラム）に入学・在籍予定者（修士課程1、2回生）、あるいは博士後期課程に進学（編入学）・在籍予定者（博士後期課程1回生）で、博士（工学）の学位取得を目指す者。



### 3. 出願手続

京都大学大学院工学研究科Aクラスター事務区教務掛（宛先は、8.出願書類提出先を参照のこと）へ書留速達郵便もしくは持参にて提出すること。

- 1 英文履歴書（様式任意，A4サイズ1枚）
- 2 英文研究実績・計画書（様式任意）
- 3 指導教員の推薦書（様式任意，一通）
- 4 TOEFL/TOEIC/IELTSの成績（証明書）原本

なお、他大学の入学試験のために、原本を提出している場合は、コピーも可とするが、その旨申し出ること。TOEFL/TOEIC/IELTS等の受検経験がないために（4）の書類を準備できない学生、海外で長らく英語による学業に就き、英語を用いた学習・研究に関し既に高い能力を持つ学生については、上記試験の成績原本提出を当該学生に課さずに、英語力の判定を口頭試問時に行う場合がある。

#### 願書受付期間：

令和4年8月1日（月）～令和4年8月5日（金）午後5時必着

### 4. コース履修者の選抜方法

書類審査において総合的に判断し所定の基準に達した者に対して、英語での口頭試問（過去の研究経過ならびに今後の研究計画を英語で発表・質疑応答）を実施し、口頭試問の成績・指導教員の推薦書・出願書類に記載の研究実績・計画書の内容を総合して合否を判定する。

#### 口頭試問

令和4年8月30日(火)（時間は別途通知）に口頭試問を行い、JGP関連教員が評価する。

### 5. コース合格者の発表

コース履修者の合格発表は、令和4年9月16日(金)に行う（合否について、各出願者へ別途通知する）。選抜された学生は、令和4年10月から本コースに正式に進む。なお、コース履修者は融合工学コース物質機能・変換科学分野に所属し、所定の学修・研究に取り組む。

## コース修了要件

1. 工学研究科博士課程前後期連携教育プログラムの融合工学コース，物質機能・変換科学工学分野のスーパーグローバルコースに所属し，別途定める規定の単位を取得すること。
2. JGPセミナーとJGP国際インターンシップを，併せて1.5単位以上取得すること。
3. 博士論文（含草稿）に対して海外教授の指導を受け，もしくは，海外研究機関で1ヶ月以上のインターンシップ研修を行うこと。
4. 物質機能・変換科学分野において必要な研究指導を受け，工学研究科の行う博士論文の審査及び試験に合格すること。

## 修了に必要な単位

科目区分	単位数		
	5年型		3年型
	修士課程	博士後期課程	博士後期課程
コア科目	4単位以上	6単位以上	2単位以上
Major科目	8単位以上	10単位以上	2単位以上
Minor科目	4単位以上	6単位以上	2単位以上
ORT科目	8単位以上	10単位以上	2単位以上
その他の科目	必要に応じて指導教員の承認を得て履修		
合計	30単位以上	40単位以上	10単位以上

## 修了に必要な単位

(4)科目標準配当表（物質機能・変換科学分野（融合工学コース））

毎週時数				単位	科目区分				履修指定		
前期		後期			コア 科目	Major 科目	Minor 科目	ORT 科目	5年型	3年型,5年型	
春	夏	秋	冬						修士	博士	SGC 博士
		2		1.5	○	○	○		○	○	○
2				1.5	○	○	○		○	○	○

化学系融合コース（物質機能・変換科学分野）の中でSGCの欄に○がついている科目から履修すること

## 6. 学習助成

グローバルに活躍できる人材を育成するために、化学系各分野で世界的トップレベルの海外教育研究機関との連携・協力の強化を行い、化学系各分野での先進的・学際的な研究教育を展開する。そのプログラムのなかで**海外の大学において研究インターンシップを実施**する。海外の大学においてインターンシップを実施する場合には、**渡航費および海外の大学への登録費**を補助する（予定）。ただし、本プログラム履修は、履修者全員に対して海外の大学での研究インターンシップ実施を保証するものではない。

## 活動の詳細は、ユニットのWeb-site参照

京都大学  
工学部・大学院工学研究科

ホーム 学科・専攻等 入学案内 **教育** 研究 国際交流 概要 在学生・卒業生

学部教育  
 ・教育ポリシー  
 ・カリキュラム  
 ・工学共通教育  
 ・授業アンケート  
 ・アカデミックカレンダー

大学院教育  
 ・教育ポリシー（修士課程）  
 ・教育ポリシー（博士後期課程）  
 ・工学研究科教育プログラム  
 ・カリキュラム  
 ・工学共通教育  
 ・大学院教育に関する規程  
 ・授業アンケート

教育プロジェクト等  
 ・博士課程教育リーディングプログラム  
 ・卓越大学院プログラム  
 ・**スーパーグローバルコース**  
 ・終了したプログラム

工学部公開講座

125

サイトポリシー | © 2022 Kyoto University ログイン

Japan Gateway  
TOP GLOBAL Kyoto University Top Global Program  
Chemistry and Chemical Engineering Unit for the Top Global Course  
学際融合教育研究推進センター スーパーグローバルコース化学系ユニット

HOME Sitemap

HOME Message Outline Members Events Activity Reports Contact / Access

Japan Gateway:  
Kyoto University Top Global Program

Chem & ChemEn

EVENTS [More](#)

NEWS [More](#)

For Students

2020/11/20 - 2021/01/15  
"JGP Seminar IX" by Prof. Brett L. Lucht (University of Rhode Island, USA) [More detail](#)

Oct 1, 2020  
Dr. Duncan W. Brown (President, Pacific Tech Link, LLC (USA), Guest Research Associate, Kyoto University) is now staying at JGP. He will deliver four Lectures (details: [see Flyer](#))

Admission  
Curriculum  
Lecture / workshop / seminar



JGP化学系オフィス  
A3棟152号室  
Tel: 2876 田中 ・ 2878 北尾

ユニット会議委員

専攻	氏名	電話
材料化学	大塚 浩二	15-2447
材料化学	中尾 佳亮	15-2443
物質エネルギー化学	陰山 洋	15-2506
物質エネルギー化学	安部 武志	15-2487
分子工学	今堀 博	15-2566
分子工学	関 修平	15-2572
高分子化学	秋吉 一成	15-2589
高分子化学	大内 誠	15-2600
合成・生物化学	生越 友樹	15-2733
合成・生物化学	跡見 晴幸	15-2777
化学工学	河瀬 元明	15-2663
化学工学	佐野 紀彰	15-2664
化学工学	大嶋 正裕	15-2666